

ベトナムの金融事情

<信じられない高金利>

ベトナムに行かれると、銀行の前に、10%前後の数字の看板をよく見かけると思います。金利が1%にも満たない日本の状況から考えると、信じられない数字ですが、金利を示す数字です。現在、ベトナムでの金利は、銀行からの貸出金利が約7~8%、銀行からの借入金利が約10%と、日本人からすると考えられない高金利となっています。銀行に預けておくだけで、10年程度で2倍に増えるということを意味します。逆に、銀行からお金を借りると、7年程度で借入額と同じ金利を支払う必要があるということです（実際には、長期の貸出しはほとんどないです）。過去、高度成長期の日本でも、同程度の金利水準であったが、現在の日本では考えられない高金利であると言える。しかし、これは、ベトナム国内の通貨であるベトナムドン建てでの金利であり、米ドルや日本円ではありません。

ベトナムでは経済成長とともに、物価上昇も著しいのが実態です。従って、金利が上昇しても、物価が上昇すれば、金利によってベトナムドンの金額は増えますが、購入できるものはたいして変わりません。また、ベトナムドンは、変動為替であり、近年は日本円や米ドルに対して、弱くなる傾向が強くて、銀行の金利でベトナムドンは増えますが、米ドルや円に交換すると、それほど増えないことに気を付ける必要があります。現在のレート（2013年12月17時点）で、1ベトナムドンが約0.0049円（1万ベトナムドンが約490円）です。ベトナムドンの為替レートは、半年前は1ベトナムドンが0.0046円程度と円に対しては1割程度弱くなっています。

<ベトナムの銀行は、かなり小規模>

ベトナムには、日本と同様に非常に多くの銀行がある。イギリスのバンカーという雑誌によると、ベトナムの銀行で総資産額が最大の銀行は、VietinBankとVietcomBankが219億ドルで、次いで、BIDVが193億ドル、ACB(Asia CommercialBank)が134億ドルとなっています。これは、東京三菱UFJフィナンシャルグループが2兆6642億ドル、みずほフィナンシャルグループが2兆129億ドル、三井住友フィナンシャルグループが1兆7412億ドルと比較すると、1/100程度と規模は小さい。

ベトナムのGDPが日本の名目GDPが約6兆ドルで、ベトナムが1550億米ドルと

50 倍程度の差があるが、それ以上の差が開いていると言えます。これは、1991 年のドイモイから資本市場経済に移行し、まだ金融制度が整っていないことが大きな要因であると言えます。

<進出企業の多くは親子ローン>

近年、ベトナムには多くの外資系企業の進出が増加しています。その中でも、日本企業の進出は非常に多い。ベトナムの対内直接投資（2013 年上半期）は、日本からの投資が 34%を占め、次いでシンガポールが 31%、ロシアが 8%です。

進出した日本企業は、資金の調達は、日本からの出資や日本の本社からの親子ローンの形態が多く、ベトナムの銀行から資金を調達するケースはまれです。多くの日系企業が取引をしている主要な金融機関は、日本の銀行のベトナム支店であり、従業員の給与支払いなど一部の用途に限って、ベトナムの金融機関とお付き合いしているのが実態です。

しかし、将来的には日本の金利が高まることや、海外子会社が自立していき、ベトナムの金融機関との取引も増加していくと考えられます。